

Cardiovascular Imaging In-a-Month

からまったピグテールカテーテル
の抜去法

Retrieval of a Trapped Pigtail
Catheter

岸本 千晴

Chiharu KISHIMOTO,

症 例 72歳，女性

主 訴：胸部圧迫感．

現病歴：生来健康．2年前より早朝，夜間に胸部圧迫感を自覚し，冠攣縮性狭心症が疑われ入院した．診断的心的カテーテルを行った．大腿動脈穿刺により5Fのピグテールカテーテルで左室造影を行い，大動脈へ引き抜こうとしたときに，カテーテルの先端部がからんでしまった．ガイドワイヤーで矯正を試みたが，あいにくカテーテル湾曲部手前にある側孔に抜けてしまって，ガイドワイヤーが先端まで通らなくなった(Fig. 1)．

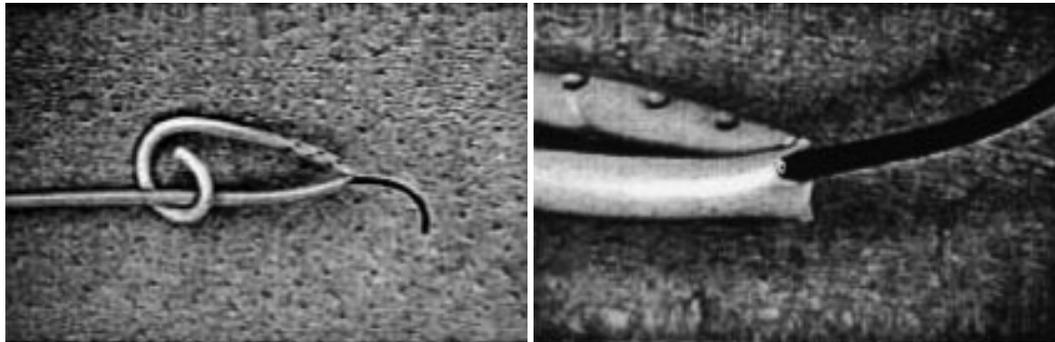


Fig. 1

京都大学大学院医学研究科 循環器内科：〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54

Department of Cardiology, Kyoto University, Graduate School of Medicine, Kyoto

Address for correspondence: KISHIMOTO C, MD, Department of Cardiology, Kyoto University, Graduate School of Medicine, Kawara-machi 54, Shogoin, Sakyo-ku, Kyoto 606-8507

Manuscript received April 8, 2004; revised April 23, 2004; accepted April 26, 2004

診断のポイント

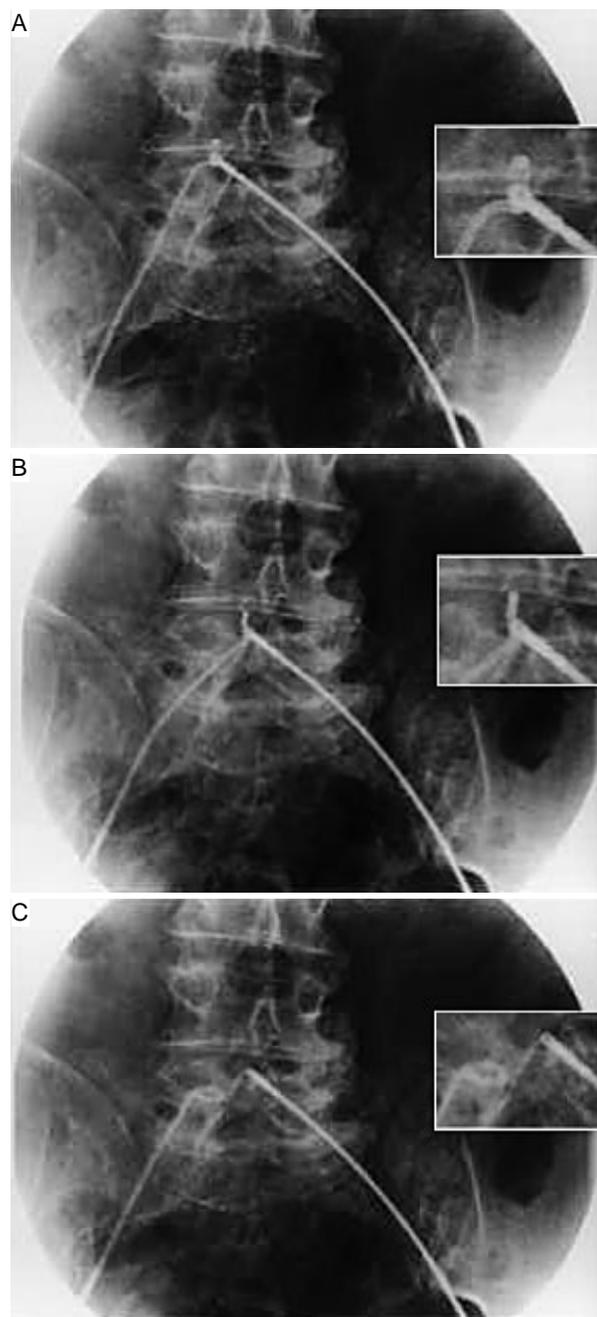


Fig. 2

腹部大動脈レベルで何度試みても同じことを繰り返すばかりで、右鼠径部穿刺部のシースからは抜去不可能であった。

そこで、バイオトームによる矯正を思いついた (Fig. 2)。左鼠径部より刺穿し、Cordis製のバイオトームを挿入した。左右腸骨動脈の会合部を、少し通過したところでバイオトームをまず開き、少し抜いたところで止めた。ついで、ビッグテールカテーテルをゆっくり引いてバイオトームが開いているところで止め、透視をみながらビッグテールカテーテルに回転をゆっくり加えて先端の丸い部分を重ねた (Fig. 2-A)。バイオトームにビッグテールの部分が捕まえられているかどうかビッグテールを引きつつ (Fig. 2-B)、“空振り”でないことを確認して、やや強い力でビッグテールカテーテルを引き抜き、矯正に成功した (Fig. 2-C)。

からまったビッグテールカテーテルのためシースからの抜去が困難なので、動脈切開を施行しようと思ったときに上記手技を思い付いた次第である。なお、この症例は、その後もカテーテルを続行し、アセチルコリン負荷検査により冠攣縮の誘発を試みたが、陰性であった。なお、某カテーテル製造元は、後日カテーテルの改善を行ったことを付記しておく。

Diagnosis: Successful retrieval of a trapped pigtail catheter with a biptome

Key Words: Heart catheterization; Complications

Fig. 1 Photographs showing the reproduction of unsuccessful correction of the pigtail catheter by a guidewire *ex vivo*

Fig. 2 Radiographs showing the trapped pigtail catheter caught and retrieved (A - C) with a biptome introduced via the left femoral artery